



第3回文化芸術によるまちづくり座談会

～町田市における文化芸術論～

0. 目次

○ 前半

1. 今回のテーマ
2. 第2回座談会のふり返り
3. 町田市の文化芸術振興の現状

○ 後半

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例
5. 事例を踏まえて
6. 文化芸術ホールを見据えた新しい考え方
7. こんなことできたらおもしろいな！！

1. 今回のテーマ

○ 町田市の文化芸術論

● 座談会のテーマ

● 第1回: 町田市の現状

文化芸術によるまちづくりにおけるホールの役割

● 第2回: 文化芸術ホールとまちづくり

● 第3回: 町田市における文化芸術論

● 第4回: ホール経営論

● 第5回: 総括

● 今回の視点: 文化芸術振興

● これまでの町田市の文化芸術振興をふり返る

● 新しい文化芸術ホールを見据えて、これからの町田市の文化芸術振興を考える

2. 第2回座談会のふり返り

○ 目次

- ① 論点:シンボルとしてのホール
- ② 論点:ホールのコンテンツとまちづくり

2. 第2回座談会のふり返り

① 論点：シンボルとしてのホール

- ハードの観点から

- 100年後を見据えたアイデンティティとモチーフは何か
- 現在と将来の町田を象徴するものが必要

- ソフトの観点から

- ソフトの魅力を対外的に発信し、認知される必要がある
- 芸術ホールなのか、文化ホールなのか



- 総合的な観点から

- 町田に住みたいと思われるようなホール
- 町田を発信することができるシンボルとしてのホール

2. 第2回座談会のふり返り

② 論点：ホールのあるまち（都市開発の視点）

● ソフトを重視する都市開発

- 近年の都市開発ではハードだけではなく、ソフトが重視されている
- 住民のためのホールは第1ステップであり、ホールを核としたまちづくりと経済活性化を視野に入れるべき

● まちづくり・市内経済への影響

- コンテンツの力で人の流れを変えるようなホール
- 長期的な視野に立ち、来街者の増加やまちの変化を生み出し、経済的な活性化をもたらすホール

3. 町田市における文化芸術振興の現状

○ 目次

- ① 3つの視点
- ② 「する・魅せる」文化芸術
- ③ 「育つ・育てる」文化芸術
- ④ 「観る・聴く」文化芸術
- ⑤ 町田市における文化芸術

3. 町田市における文化芸術振興の現状

① 3つの視点

- 「する・魅せる」
 - 市民が主役として愉しむ文化芸術／自分の愉しみとしての活動
- 「育つ・育てる」
 - 次世代の担い手による文化芸術／育成と発表の機会
- 「観る・聴く」
 - 市民がオーディエンスとして愉しむ文化芸術／文化に触れる機会

3. 町田市における文化芸術振興の現状

②「する・魅せる」文化芸術

● 市民による文化芸術活動団体・グループ【オーケストラ】

● 町田フィルハーモニー交響楽団

- 40年近く活動をつづける楽団
- 毎年10月に市民ホールにて定期演奏会を開催する

● 町田楽友協会

- 市内玉川学園を中心に活動するNPO
- 年齢や障がいの有無を問わず参加できるバリアフリーオーケストラを実施

● 町田ヴィヴァーチェ管弦楽団

- 2010年から活動を始めた楽団
- 2013年から市民ホールにて定期演奏会を開始した

● 町田・相模原イーストメリーウィンドオーケストラ

- 2004年から町田市・相模原市を中心に活動する楽団
- 町田・相模原のホールで定期演奏会を行う



町田・相模原イーストメリーウィンド
オーケストラ公演風景（公式サイトより）

3. 町田市における文化芸術振興の現状

②「する・魅せる」文化芸術

● 市民による文化芸術活動団体・グループ【演劇】

● 劇団マチダックス

- 2011年に渡辺裕太氏が明治座養成所の同期2人と中心になって立ち上げた市内に拠点を置く劇団
- 同年11月には町田市民フォーラムにて旗揚げ公演を実施
- 2014年5月には和光大学ボブリホール鶴川で、計6ステージの公演を行った。

● 劇団「ここ」

- 町田市民フォーラムを拠点に活動している劇団
- 年2回のペースで、これまで18本のオリジナル作品を公演している。
- 中学生から60代まで幅広い年齢の方々が舞台公演に出演



劇団マチダックス公演ポスター
(公式サイトより)

3. 町田市における文化芸術振興の現状

②「する・魅せる」文化芸術

● 市民による文化芸術活動団体・グループ【ミュージカル・オペラなど】

● 町田市合唱連盟

- 町田で活動するアマチュア合唱団と、合唱音楽の専門家が協力して合唱音楽の普及と発展に努めている

● 町田シティオペラ協会

- オペラ愛好家や演者からなる市民グループ
- 毎年、市民ホールにて定期公演を開催する

● オペラ季節館

- 市内北西・相原地区に稽古場を構える劇団
- 伊勢谷宣仁氏(昭和音楽大学教授)が代表を務める
- 市民の合唱団、劇団を組織する

● 町田市民ミュージカルの会

- 子どもたちが活躍している市民参加型ミュージカル公演を行う団体
- 2012年から市内ホールで公演を行う



町田市民ミュージカル公演風景
(公式サイトより)

3. 町田市における文化芸術振興の現状

② 「する・魅せる」文化芸術

● 市民の発表の場(町田市民ホール)

● 町田市民文化祭

- 町田市と町田市文化協会、町田市文化・国際交流財団が連携して開催
- 民謡・舞踊・詩吟などの舞台部門や展示、文芸部門による「秋の催し」

● 合唱祭

- 町田市民ホールで行われる合唱祭(町田市合唱連盟主催)
- 2014年度は35組が出演

● 町田市郷土芸能まつり

- 町田市郷土芸能協会が主催・運営する
- 毎年、町田市の郷土芸能・伝統芸能を継承する団体
(2014年度は18団体)が出演



郷土芸能まつりの様子
(町田市民ホール公式サイトより)

3. 町田市における文化芸術振興の現状

② 「する・魅せる」文化芸術

● 市民の発表の場(その他施設)

● 町田ジャズフェスティバル〈町JAZZ〉

- 2010年から開催されているアマチュア中心のジャズフェスティバル
- 実行委員会形式で開催(町田ターミナル周辺活性化協議会、町田まちづくり公社が共催)
- 主な会場は町田ターミナル市民広場・ぽっぽ町田

● Machida Collection(まちコレ)

- ファッションを学ぶ学生が制作した作品のファッションショー
- 2014年は109MACHIDAビル7階(町田市生涯学習センター)で開催

● FMCけいおんフェスタ

- ライブや勉強会等を行う軽音楽倶楽部が主催する音楽祭
- 109MACHIDAビル7階(町田市生涯学習センター)にて開催



町田ジャズフェスティバルの様子
(公式サイトより)

3. 町田市における文化芸術振興の現状

②「する・魅せる」文化芸術

- 市民が主体となって活発な文化芸術活動が行われており、その分野も幅広い。また、市民ホールを中心 にさまざまなかたちで発表の機会がある。

3. 町田市における文化芸術振興の現状

③ 「育つ・育てる」文化芸術

● コンクール、発表会

● まちだ全国バレエコンクール

- 毎年、市民ホールにて開催される(NPO法人町田バレエ育成振興会主催)
- 首都圏を中心に北海道や海外から、毎年500名以上の出場者がいる

● 全国町田ピアノコンクール

- 毎年、市民ホールにて開催される(町田市音楽協会主催)
- 全国から出場者が募る(2014年度は271名の出場)

● 町田ジュニアフェスティバル 音楽の部／バレエの部

- 毎年、市民ホールにて開催される子どもによる発表会(音楽指導者連盟主催)
- 音楽の部の入場者は、2013年度は1,000名、2012年度は600名
- バレエの部は入場者は5回公演で、2013年度は803名、2012年度は750名

● ポップフェスティバル in 町田

- ジャンルや演奏形態を問わないコンテスト形式の音楽イベント
- 学生部門、一般部門、ファミリー部門をあわせ、2014年度は132組267名が参加

3. 町田市における文化芸術振興の現状

③ 「育つ・育てる」文化芸術

● 若手アーティスト支援

● 若き演奏家による水曜午後の音楽会

- 和光大学ポプリホール鶴川にて毎月開催されるクラシックコンサート
- 岡山潔氏(東京藝術大学名誉教授)が人選に協力
- 入場者は12回で、2013年度は計3,273名(2013年度より開始)

● まちだフレッシュコンサート

- 生涯学習センターで開催される、音楽大学や大学院等を卒業した若い音楽家によるクラシックのコンサート

● 地産地SHOWプロジェクト

- 町田市ゆかりのアーティストによるコンサートおよび展示
- プロやプロを目指している期待のアーティストを市内外に広く紹介するための取組
- 市役所1階イベントスタジオや2階市民協働おうえんルームで開催される

3. 町田市における文化芸術振興の現状

③ 「育つ・育てる」文化芸術

- 中学・高校での芸術教育

- 市内中学校などが合唱祭を開催

- 市立鶴川二中が2014年度NHK全国学校音楽コンクールで金賞受賞
 - 毎年市内の中学校が町田市立中学校連合音楽会を行っている
 - 2014年度は20校が参加

- 玉川学園

- 高等部吹奏楽部が2013年ウィーン国際青少年音楽祭第1位を受賞
 - また、2014年度東日本学校吹奏楽大会高等学校部門で金賞受賞
 - 中学部吹奏楽部が「第62回全日本吹奏楽コンクール・中学の部」で銀賞受賞

3. 町田市における文化芸術振興の現状

③ 「育つ・育てる」文化芸術

● 大学での芸術教育

- 町田市および近郊の大学には多くの芸術系学部が集まる

大学	学部・学科
桜美林大学	芸術文化学群 演劇専修 ★
	芸術文化学群 音楽専修
	芸術文化学群 造形デザイン専修 ほか1コース
和光大学	表現学部 総合文化学科
	表現学部 芸術学科
玉川大学	芸術学部 メディア・デザイン学科
	芸術学部 芸術教育学科(音楽コース／美術・工芸コース)
	芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 ★
昭和音楽大学	音楽学部 作曲学科 ほか5学科
昭和音楽短期大学	音楽科

3. 町田市における文化芸術振興の現状

③ 「育つ・育てる」文化芸術

● 大学での芸術教育

● 桜美林大学芸術文化学群演劇専修

- 演劇・ダンスのコースがあり、演者だけでなく、企画・製作についても学ぶ
- プルヌスホール、徳望館小劇場、ダンススタジオを有する
- プルヌスホールでは、学群が製作する公演OPAPのほか、定期公演を行う
- ホールの管理は学生主体の劇場コミッティ

● 桜美林大学パフォーミングアーツ・インスティテュート

- 劇場コミッティとともにプルヌスホールの管理・運営にあたる学内組織
- 北九州芸術劇場のプロデューサーで同大学教授の能祖將夫氏が企画製作ディレクターを務める。
- 「地域に開かれた劇場」をめざし、市民参加型公演「群読音楽劇 銀河鉄道の夜」やワークショップを開催
- 町田市立小学校へのアウトリーチも行っている

● 玉川大学芸術学部

- 学内のホールでパフォーミングアーツ学科学生による公演を開催している（沖縄での巡回公演、こどもの城青山円形劇場での公演も行っている）

3. 町田市における文化芸術振興の現状

③ 「育つ・育てる」文化芸術

● 町田で育ったアーティスト等

● 菅井円加(バレエ)

- まちだ全国バレエコンクールで優勝後、ローザンヌ国際バレエコンクールで1位入賞

● 諏訪内晶子(ヴァイオリニスト)

- 最年少でチャイコフスキー国際コンクールでの優勝を経て、国内外で活躍する
- 町田市出身

● BAWDIES(ロックバンド)

- 武道館公演ではソールドアウト
- 市内私立高校の同級生が結成したバンド

● LUNA SEA(ロックバンド)

- 1992年のメジャーデビュー以降、シングルCDの累積売上500万枚を誇る
- 町田のライブハウス「プレイハウス」でキャリアを積んだ

● 在日ファンク(ファンクバンド)

- ROCK IN JAPANフェス2012でトリを務めた実力派バンド
- 市内私立大学出身者が結成したバンド

3. 町田市における文化芸術振興の現状

③「育つ・育てる」文化芸術

- バレエ、ピアノコンクールは、そのレベルの高さや市外からの参加者も多いという点で評価できる。
- 芸術系学部のある大学が市内に点在していることは特徴と言える。

3. 町田市における文化芸術振興の現状

④ 「観る・聴く」文化芸術

● 町田市民ホール事業概要(2013年度)

- ホール席数:862席
- 多目的ホール

事業項目	事業数	入場者数	事業例
主催・共催事業	37事業	30,656名	<ul style="list-style-type: none">・音楽公演:リチャード・クレイダーマン、南こうせつ、char、小曾根真、ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団、クレージーケンバンドほか・歌劇:音楽座ミュージカル、モスクワ・クラシック・バレエ・落語:春風亭小朝、立川談春、桂文枝、立川志の輔ほか
市民参加型事業	15事業	27,643名	<ul style="list-style-type: none">・まちだ全国バレエコンクール・全国町田ピアノコンクール・町田フィルハーモニー交響楽団定期演奏会・町田市合唱連盟合唱祭など

3. 町田市における文化芸術振興の現状

④ 「観る・聴く」文化芸術

● 町田市民ホールでの主な事業(2013年度)の実施状況

事業名	収支	チケットの売れ行き
南こうせつコンサート	○	売り切れ
森友嵐士Acoustic Live	×	
Char 2013 TOUR TRADROCK	○	売り切れ
藤澤ノリマサCONCERT TOUR	○	売り切れ
小曾根真 ジャズ・ライブ	○	
クレイジーケンバンド TOUR	×	売り切れ
春風亭小朝独演会	○	
立川談春独演会	○	売り切れ
狂言に親しむ会	○	売り切れ
桂文枝初笑い	○	売り切れ
社会風刺コント集団 ザ・ニュースペーパー in まちだ	○	売り切れ

3. 町田市における文化芸術振興の現状

④ 「観る・聴く」文化芸術

● 町田市民ホールでの主な事業

● 音楽座ミュージカル ホームタウン公演

- 市内に拠点を持つ全国規模のミュージカル劇団
- ホームタウン公演として市民ホールで定期公演を行う
- 市民ホール(財団)との共催で毎年公演を行う
- 入場者数は、2013年度が2,337名(3回公演)、2012年度が1,777名(3回公演)

開催月日	演目
2014年10月	メトロに乗って
5月	泣かないで
2013年12月	ラブ・レター
2012年12月	とってもゴースト
2011年1月	シャボン玉とんだ宇宙(ソラ)までとんだ
2011年7月	リトルプリンス2011～星の王子さま～



公演の様子
(音楽座ミュージカル公式サイトより)

3. 町田市における文化芸術振興の現状

④ 「観る・聴く」文化芸術

● 和光大学ポプリホール鶴川事業概要(2013年度)

- ホール席数: 300席
- 音響性能のよい音楽ホール

事業項目	事業数	入場者数	事業例
主催・共催事業	24事業	6,237名	<ul style="list-style-type: none">・音楽公演: 杉田二郎 & 因幡晃、渡邊貞夫、加藤登紀子、沖仁ほか・その他: いっこく堂ほか
市民参加型事業	34事業	9,629名	<ul style="list-style-type: none">・全国町田ピアノコンクール受賞者コンサート・若き演奏家による水曜午後の音乐会・サロンコンサート ほか

3. 町田市における文化芸術振興の現状

④ 「観る・聴く」文化芸術

● ポプリホールでの主な事業(2013年度)の実施状況

事業名	収支	チケットの売れ行き
新垣勉 テノールリサイタル	○	売り切れ
木嶋真優・江口玲 デュオリサイタル	○	
杉田二郎&因幡晃 フォークライブ2013	×	売り切れ
渡邊貞夫 ライブ	×	即日完売
沖仁 フラメンコギターコンサート	○	売り切れ
加藤登紀子トーク＆ライブ(開館1周年記念事業)	×	即日完売
三浦一馬&松本和将 デュオリサイタル	○	
菅原洋一 コンサート	○	売り切れ
いっこく堂スーパーライブ	×	即日完売
魔耶一星イリュージョンショー	×	

3. 町田市における文化芸術振興の現状

④ 「観る・聴く」文化芸術

- 民間サイドによる取り組み

- ライブハウス・ジャズ喫茶・ジャズバー

- 市内には8軒のライブハウスと、6軒のジャズ喫茶・ジャズバーが点在
 - アマチュアバンドマンからプロまで幅広いライブが行われている

- 町田ミュージックパーク

- 町田駅直結のターミナルプラザでの音楽イベント
 - プロ・アマを問わずライブコンサートを定期的に開催する
 - 町田ターミナル周辺活性化協議会が主催・運営



3. 町田市における文化芸術振興の現状

④ 「観る・聞く」文化芸術

- 市民がさまざまな分野の芸術やエンタテイメントを鑑賞することができる

3. 町田市における文化芸術振興の現状

⑤ 町田市における文化芸術振興

● 文化芸術振興のまとめ

- 市民が多様な文化芸術に親しみ、自らも文化芸術活動に取り組むことができている
- さまざまな分野でチャレンジするきっかけとなる場や機会はある。またそれを支える人たちも少なくない

● 将来に向けた課題認識（文化芸術ホールを見据えて）

- <町田ならでは><町田と言えばコレ>と言ってもらえるような、つまりまちのアイデンティティといわれるような文化芸術を模索するべき
- 今までよりも一歩踏み込んで新しい文化振興の理念・価値を考えていくべき

0. 目次

○ 後半

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例
5. 事例を踏まえて
6. 文化芸術ホールを見据えた新しい考え方
7. こんなことできたらおもしろいな！！

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

○ 目次

- ① 先進的な事業
- ② 芸術監督制・プロデューサー型
- ③ 専属楽団・劇団
- ④ コンペティションの開催
- ⑤ フランチャイズ方式
- ⑥ 世界的プログラムの招致

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

① 先進的な事業

● 水戸芸術館(茨城県水戸市)

- 国内外に先進的な文化芸術拠点として認知される
- 運営理念
 - 新しい芸術文化を創造する芸術館
 - 國際的な視野にたって芸術文化の交流を行う芸術館 ほか
- 運営の特色
 - 自主企画を中心に
 - 専属の楽団(水戸室内管弦楽団等)と劇団(ACM)を編成
 - 過去、財団による運営と市予算1%の管理運営費として支出
- 先進的な自主事業と鑑賞者教育(アウトリーチ事業)を両立している
- 住民参画型の創造型事業を実施している

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

① 先進的な事業

- 山口情報芸術センターYCAM(山口県山口市)
 - 国内外からメディアアート拠点として認知されつつある
 - メディアテクノロジーを駆使したアート・演劇・パフォーマンスの展示・上演・開発を行う
 - 21世紀の潮流を「情報」と「文化」ととらえ、新しい価値創造と情報発信拠点として構想
 - きっかけは「やまぐち情報文化都市基本計画」(平成5年策定)
 - 「地域と世界に開かれたアートセンター」
 - 展覧会や作家と共同制作したオリジナルの作品を国内外に普及する
 - YCAM発の展覧会・作品を通じて山口市をブランディングしている

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

② 芸術監督制・プロデューサー型

● 東京芸術劇場(東京都)

- 2009年より野田秀樹氏(劇作家・演出家)が芸術監督を務める
 - 芸術監督:プログラムの責任者として公演の方向性や選定にあたる人材
- 芸術監督就任後、若者に人気の新進の5つの劇団を招聘した連続公演「芸劇eyes」を提案
- 野田秀樹氏の戯曲を別の演出家が手がけて公演するプログラムを実施
- 明洞芸術劇場(韓国)と野田秀樹作品「半神」を共同制作し、両劇場で上演した

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

② 芸術監督制・プロデューサー型

● まつもと市民芸術館(長野県松本市)

- 2003年より串田和美氏(演出家・舞台芸術家)が芸術監督を務める
- 串田氏の招きで故・中村勘三郎氏とともに、市民参加型の歌舞伎公演「信州・まつもと大歌舞伎」を実施
 - シアターコクーンから海外を巡回した平成中村座『夏祭浪花鑑』のツアー最終公演が松本だったことにはじまる
 - その後、2年に一度、中村勘三郎氏の死後も平成中村座が公演を行う
 - 毎回300人を超える市民サポーターのほか、市民キャストが舞台に立つ
- 約半年に渡る演劇学校「まつもと演劇工場(シアターファクトリ)」を開講している

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

② 芸術監督制・プロデューサー型

● 静岡県舞台芸術センター(静岡県静岡市)

- 1997年(1995年開館)より鈴木忠志氏が芸術総監督を務めた後、2007年以降は宮城聰氏(演出家)が務める
 - 劇団「ク・ナウカ」の演出家として国内外での公演を演出してきた
- 国内外から上演作品を募る「ふじのくにせかい演劇祭」を企画
- 國際的な振付家・ダンサーのメルラン・ニヤカム氏をむかえ、10代の子どもたちが共同制作する「スパカン ファン」を組織
- 企画のみならず、予算や人事に関しても提言を行っている

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

② 芸術監督制・プロデューサー型

- 武蔵野市民文化会館(東京都武蔵野市)

- 安価な料金設定で良質なコンサートを企画し、10年近く連續して完売を記録
- 特にブレイク前の演奏家の招聘に評価があり、武蔵野市で初来日を果たす演奏家も多い
- 結果、日本進出を目指す演奏家・プロモーターから武蔵野市が指名されることもある

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

②芸術監督制・プロデューサー型

● 兵庫県立芸術文化センター(兵庫県)

- 開館(2005年)を前にして、2002年から国際的に活躍する指揮者・佐渡裕氏が芸術監督を務める
- 同センター専属オーケストラ「兵庫芸術文化センター管弦楽団」の指揮を執るほか、若手演奏家の育成にあたる
- そのほか事業面ではオペラなどの公演を企画する

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

③ 専属楽団・劇団

● 兵庫県立ピッコロ劇団(兵庫県)

- 1994年に兵庫県によって結団された国内初の県立劇団
- 兵庫県立尼崎青少年劇場(ピッコロシアター)を拠点に創作劇を中心とした公演とアウトリーチを実施
- 同シアターにて1983年から開講されてきたピッコロ演劇学校・舞台技術学校(後者は1992年より)と連動

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

③ 専属楽団・劇団

● オーケストラ・アンサンブル金沢(石川県金沢市)

- 1988年に石川県・金沢市が中心となって設立された室内管弦楽団
- 2001年より石川県立音楽堂を拠点とする
- 県立音楽堂で毎月1~3回の定期公演を行うほか、全国各地で公演を行う(設立の翌年以降、海外公演も実施)
- 設立当初より作曲家と期間契約を結び、新作の提供などを行う「コンポーザー・オブ・ザ・イヤー」を実施
- 設立10年後に県立音楽堂が建設されたソフト先行の事例

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

④ コンペティションの開催

● 浜松国際ピアノコンクール(静岡県浜松市)

- アクトシティ浜松を中心とした「音楽文化都市」政策の一環
 - 「楽器の街」というリソースを活かした都市イメージの転換を図る
- 1991年から3年ごとに開催され、98年には国際音楽コンクール世界連盟に加盟するに至る(国内では7件)
- 浜松市、浜松市文化振興財団などが主催
- 元・審査委員長である中村紘子氏監修の下、国際ピアノアカデミーを毎年開催する
 - 国内外から選抜された8名が浜松市で生活しながら2週間のレッスンを受ける(浜松市民からホストファミリーを募集)
 - 教授3名も世界的なピアニストを招聘し、演奏会も開催する

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

④ コンペティションの開催

- 国際オーボエコンクール・軽井沢(長野県軽井沢市)
 - 世界でも有数のオーボエ単独のコンクール
 - 1985年より3年ごとに開催されており、2006年の第8回から軽井沢大賀ホールで開催される(国際音楽コンクール世界連盟加盟)
 - 主催は公益財団法人ソニー音楽財団
 - オーボエ奏者の登竜門として認知されており、参加者は世界で活躍する演奏者となっている

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

④ コンペティションの開催

- ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール in 八王子
(東京都八王子市)

- 2006年より3年に一度開催されるチェロの国際コンクール
- 世界的チェリスト、ガスパール・カサド氏の名を冠している
- カサド氏の妻・原智恵子氏(ピアニスト)がフィレンツェ(イタリア)で開催していたコンクールの後継
- NPO法人チェロ・コンサートコミュニティを中心に、八王子市、八王子市学園都市文化ふれあい財団等が運営する

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

④ コンペティションの開催

- 大道芸ワールドカップin 静岡(静岡県静岡市)

- 1992年より毎年、国内外からストリートパフォーマーを招聘して開催されるパフォーミングアーツの祭典
- 毎年90組程度を超えるパフォーマーが参加し、市内各所で演技が行われるアジア最大級の祭典
- 招待パフォーマーが競う部門と、公募部門、さらに新人パフォーマー向けの部門がある
- パフォーミングアーツによる文化芸術創造都市を目指す

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

④ コンペティションの開催

● 横濱ジャズプロムナード(神奈川県横浜市)

- 「街全体をステージに」を合い言葉に1993年からスタートした、2日間に渡るジャズフェスティバル
- 横浜みなとみらいホールや関内ホールなどを使ったホールライブでは、国内外(特にヨーロッパ)のミュージシャンのライブが行われる
- そのほか、市内のジャズクラブや街頭にて、プロ・アマを問わずにライブが行われる
- 新人ミュージシャンを発掘するコンペティション部門もあり、演奏家のほか、目ディやレコード会社が審査員を務める
 - 2014年はコンペティション部門は開催されず

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

⑤ フランチャイズ方式

- 国内の主な交響楽団におけるフランチャイズ提携

楽団名	提携先
東京交響楽団	フランチャイズ: 神奈川県川崎市(ミューザ川崎) 準フランチャイズ: 新潟県新潟市(りゅーとぴあ) パートナーシップ: 八王子市学園文化ふれあい財団(オリ ンパスホール他)
東京フィルハーモニー交響 楽団	フランチャイズ: Bunkamuraオーチャードホール 事業提携都市: 文京区(シビックホール)、千葉市(市民会 館)、軽井沢町(大賀ホール)
新日本フィルハーモニー交 響楽団	フランチャイズ: 墨田区(すみだシンフォニーホール) 地域拠点契約: 三重県文化会館、パルテノン多摩、可児市 文化創造センター、アルカスSASEBO
東京シティ・フィルハーモ ニック管弦楽団	芸術提携: 江東区(ティアラ江東)

- 可児市文化創造センターでは劇団文学座とも地域拠点契約を結ぶ

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

⑥ 世界的プログラムの招致

- モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパンin かわさき
(神奈川県川崎市)

- 世界三大ジャズフェスのひとつ「モントルー・ジャズ・フェスティバル」の川崎版
- ミューザ川崎、クラブチッタ、プラザソルなどにて、約1週間にわたって世界的なジャズミュージシャンによるライブが行われる
- 川崎市と市内大学(洗足学園音楽大学・昭和音楽大学)などの実行委員会形式で開催される

4. 文化芸術がまちのアイデンティティになっている事例

⑥ 世界的プログラムの招致

● ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン

- フランス・ナント市での音楽祭を誘致し、東京国際フォーラムほか国内5カ所で開催される
- 東京では2005年からはじまり、2008年には金沢が加わり、2010年には新潟・大津、さらに2011年には鳥栖で開催されるようになった
 - 鳥栖は契約金の関係から2014年は開催されていない。
- ラ・フォル・ジュルネは、日本だけでなく、リスボン(ポルトガル、現在は開催していない)、ビルバオ(スペイン)などで開催してきた。
- 東京ではゴールデンウィークの一大イベントであり、国内最大級のクラシック音楽祭

5. 事例を踏まえて

○ 目次

- ① 文化芸術の新たな創造
- ② 特定分野のコンテンツを集めることによる特徴づくり

5. 事例を踏まえて

① 文化芸術の新たな創造

事例	枠組み・性質	キーワード
・水戸芸術館 ・山口情報芸術センターYCAM	市の施策を背景に公共ホールで新しい芸術作品が創り出されている	
・東京芸術劇場 ・まつもと市民芸術館 ・静岡舞台芸術センター ・武蔵野市民文化会館 ・兵庫県立芸術文化センター	優れた人材を招聘し、新しい芸術作品が創り出されている	創造
・オーケストラ・アンサンブル金沢 ・兵庫県立ピッコロ劇団	専属の楽団・劇団による新しい芸術作品が創り出されている	

→ 創造：そこで新しい文化芸術がつくられ、発信される

5. 事例を踏まえて

②特定分野のコンテンツを集めることによる特徴づくり

事例	枠組み・性質	キーワード
<ul style="list-style-type: none">・浜松国際ピアノコンクール・国際オーボエコンクール・軽井沢・大道芸ワールドカップin 静岡・横濱ジャズプロムナード など	優れた才能が集まり 競い合う	
<ul style="list-style-type: none">・ミューザ川崎・すみだトリフォニーホール・可児市文化創造センター など	その地域以外の専門集団がそのホールを活動拠点としている	集合
<ul style="list-style-type: none">・モントレー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン in かわさき・ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン	優れた演奏家を集め、その魅力を発信するプログラムを実施	

→ 集合：外から一流の芸術資源が集まることにより、ホールのあるまちという特徴が色濃くなっている

6. 文化芸術ホールを見据えた新しい考え方

○ 目次

- ① 創造・集合・発信
- ② 概念図

6. 文化芸術ホールを見据えた新しい考え方

① 創造・集合・発信

● 創造

- クリエイティブシティに通じる方向性
- <町田ならでは>の文化芸術(作品・コンテンツ)が創造される

● 集合

- 町田になかった文化芸術資源を、ホールを中心としたさまざまな仕掛けによって集める
- 文化芸術資源を集めることで、ホールのあるまちとしての価値を高める
- <町田と言えばコレ>という文化芸術分野の特徴を出す



● 発信

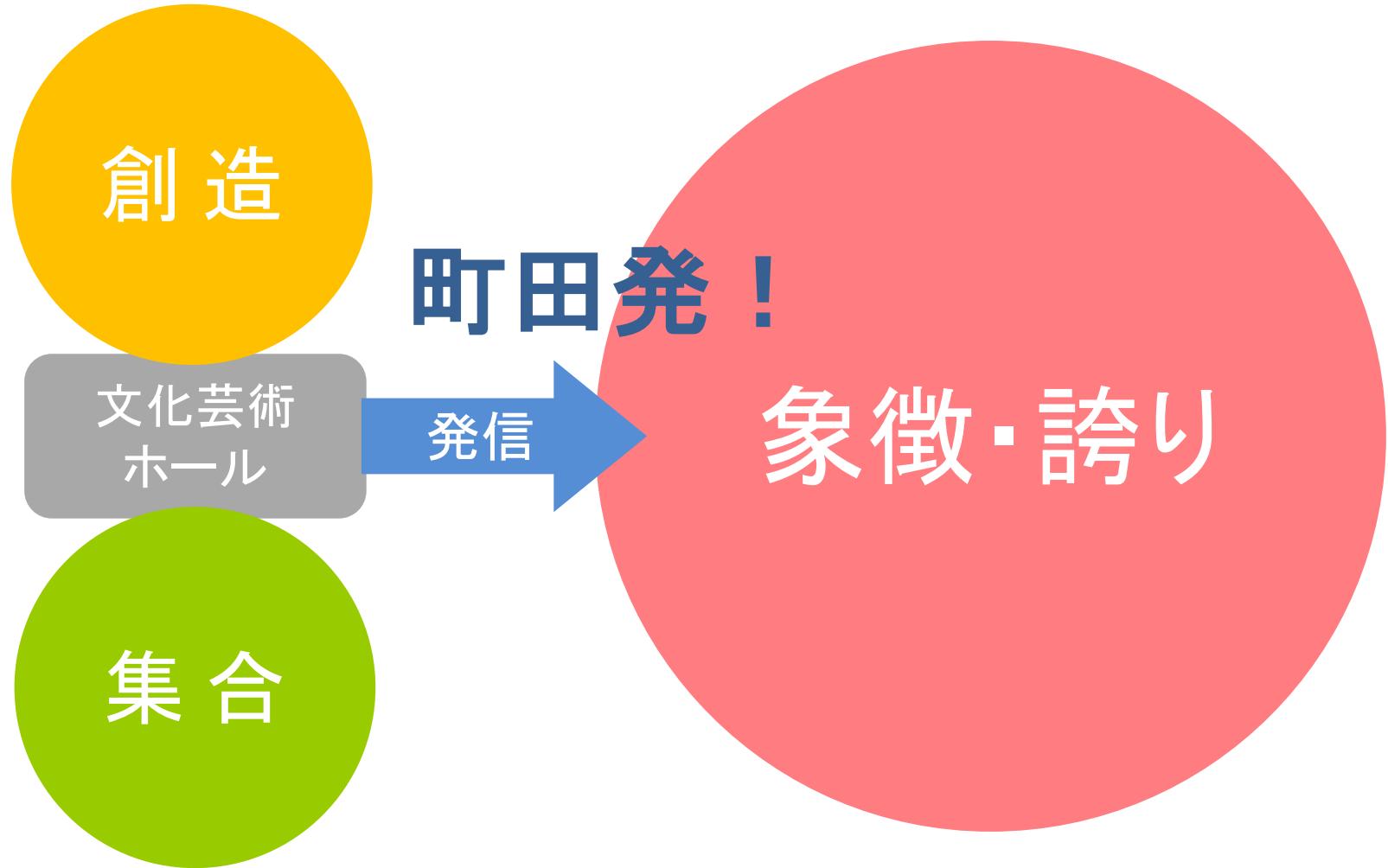
- 広く市内外に<町田発>として発信することで、文化芸術が盛んなまちとして認知され、<まちの価値>が高まる



● 町田市の象徴・町田市民の誇り

6. 文化芸術ホールを見据えた新しい考え方

② 概念図



7. こんなことできたらおもしろいな！！

○ 目次

- ① 「創造」の視点から
- ② 「集合」の視点から

7. こんなことできたらおもしろいな！！

① 「創造」の視点から

- 芸術監督プロデュースによる音楽祭
 - 芸術監督が企画・選定した演奏家による音楽祭
 - 市内大学の音楽系学部を活かしたプログラム展開
- 市民演劇ファクトリー
 - 市民から生徒を募集し、劇団を結成して稽古やワークショップを行う
 - 最終的に公演を行うかたちで成果を発表する
- 演劇アカデミー設立
 - 市内大学の演劇系学部などと連携が可能
 - 役者だけでなく、脚本、演出、舞台美術などの人材を育てる

7. こんなことできたらおもしろいな！！

②「集合」の視点から

- 交響楽団とのフランチャイズ
 - 国内交響楽団とのフランチャイズ提携を結ぶ
 - 定期公演や市内小中学校でのアウトリーチを実施する
- ミュージックフェスティバル
 - 文化芸術ホールを中心とした市内ライブハウスやジャズ喫茶と連携した音楽祭
 - ポピュラー音楽のみならず、幅広いジャンルで公演を行う
- 音楽座ミュージカル・ロングラン公演
 - 音楽座ミュージカルと提携し、ロングラン公演を行う
 - 「音楽座ミュージカルのあるまち」としてイメージ展開
- 全国大学演劇選手権
 - 大学の演劇サークルが競い合うコンペティション
 - スポーツにおけるインカレの演劇版